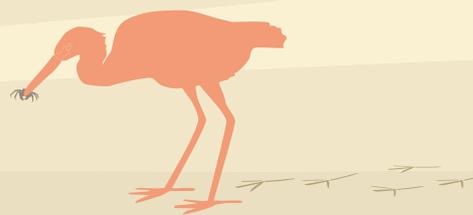


# なぎさ NEWS



## 2015年生き物調査まとめ

毎月で行っている「西なぎさ」での生き物調査も再開してから2年目に入り、2015年は観察会などの下見も含めて計10回の調査を実施しました。調査は、海に向かって左側、案内所横テント前から左手堤防までを調査エリアとし、最干潮時の前後に実施しています。

### ■ 1月 人工しおだまりのしゅんせつ工事

冬、「西なぎさ」で見られる生き物も少なくなります。コマツキガニは、砂団子などの活動跡は見られませんが、巣穴を掘ると姿が確認できました。より泥っぽいところでよく見られるオサガニとヤマトオサガニは、巣穴すら発見できませんでした。



また、2014年の調査でヤマトオサガニの密度が高かった人工しおだまりで、石垣を取り除き、泥を出す工事が行われていました。周辺は大人のひざ上まで沈み込むほど泥がたまっていました。

### ■ 4月 生き物の活動が活発に



春、暖かくなり始め、コマツキガニや、1月の調査では姿が見られなかったオサガニの活動が観察されました。堤防寄りの木の杭より沖側では、ヤマトオサガニがたくさん見られ、中には交尾中のペアや抱卵中のメスもありました。

### ■ 6月 生き物たちの繁殖シーズン

初夏、カニ類のさらに活発な行動が見られました。コマツキガニはオス同士の争いや地上での交尾行動が観察され、抱卵個体もありました。甲幅がわずかに7~8mmの個体が抱卵しているのが見つかりました。オサガニは脱皮したばかりの体のやわらかい個体がたくさん観察されました。堤防の先端、マ

ガキが重なったカキ礁では、テッポウエビが見つかり、はさみを鳴らすパチパチという音も聞こえました。他には、カキ殻のなかで卵を守るトサカギンポやイダテンギンポの姿も観察されました。

### ■ 8月 海水浴社会実験の実施

夏休みに入ると、調査エリアで海水浴の社会実験が実施されました。そのためなのか、しおだまりではほとんど魚類が見られませんでした。コマツキガニは活発に活動していてオスの求愛行動も観察できましたが、メスはなかなか見つからず、抱卵個体も確認できませんでした。また、7月の調査までは多数観察されたスゴカイイソメの棲管は見られませんでした。



### ■ 12月 チクゼンハゼを確認

冬になり、秋までとは一変して生き物の姿はほとんど見られなくなりました。堤防沿いではタカノケフサイソガニが見られ、石の裏からは稚ガニも確認されました。そんななか、数多く見られた生き物はアラムシロガイで、調査中はどこを歩いても見つけることができました。しおだまりに魚類はあまり見られませんでした。2014年4月に調査を再開してから初めて、チクゼンハゼが確認されました。地曳網調査でも2014年からの2年間で1個体しか確認されていません。



## この1年での変化



2015年は、人工しおだまりのしゅんせつ工事や海水浴社会実験の実施、公園の利用者による貝類の漁獲など、人為的な影響が大きかったと思われる1年でした。また、調査エリアの底質が顕著に変わりつつあり、全体的に砂地が減り、泥地が増えた印象を受けました。それにともない「西なぎさ」の東側堤防寄りのコマツキガニの分布域が狭まり、いっぽうでオサガニが高潮線近くでも見られようになり、分布域が広がってきました。この先どのように変化をしていくのか、今後も調査を続け、皆さんにお伝えしていきます。（教育普及係 幅 祥太）